



緑やさしい山里へ ゆったりウォーク「小百編」より

昨秋、雨のために中止となった「ゆったりウォーク」を4月29日に行いました。

小百地区を流れる川と川をつなぎ、米作りのために利用されている「二宮堀」をたどるウォークです。参加者から寄せられた感想と写真(2、4ページ)によって当日の行程がとてもよくわかると思います。普段はなかなか足を運ばない場所ですが、ぜひ皆さんにも出かけていただきたい地区の一つです。

■ 行屋跡(ぎょうやあと)と石仏

今回、参加者に感激してもらえたのは「男体講」にちなむ「行屋跡」と、そこに残されていた石仏でした。昨秋の第一回下見の時にはどうしても見つからず、小百にお住まいの大島茂氏にご相談したところ、氏のご尽力により二回目下見の際にはっきりとその場所を確認することができました。大島氏は二回目下見の前に草刈までしてくださっていたのです。お陰で本番の29日には参加者にしっかり見てもらうことができました。大島氏のご厚意に対しまして誌面より感謝・御礼を申し上げます。

この石仏は大日如来と不動明王の二体で、霧降川に面した杉林の中に、忘れられたままひっそりと置かれていました。昔は小屋掛けがされていたようです。石仏の台座の下から水がこんこんと湧き出ています。水底の小石や砂粒がはっきりと確かめられ、小さな流れとなって川の方に下っていくのです。とてもすがすがしい場所でした。ここで郷土史家・佐藤治由氏の文章をお借りしてこの石仏を紹介します。

『杉の木の枝葉が散乱している中をすすんでいくと、福田(匡男)さんが指さすところに、大日如来と不動明王の石像が安置されていた。そこはかつて男体講の行屋(精進小屋)が設けられていたところなのだそうである。毎年、男体山が山開きになると、村人の中から選ばれた人が一週間ほどの小屋に籠もり、行者として精進潔斎し、山頂を極めたあと二荒山からいただいた神札(おふだ)を講中の各戸に配布したのだそうである。大日如来像の台座に寄進者名と

安永4年(1775年)記年がなされていた。今から220年余も前の人たちがここに籠もって男体の神に平安を祈った当時を思い、素朴な民俗を懐かしんだ』

(いまいち円会誌 No.3 平成11年調査の記録より)

「かつては杉でなく雑木林であり、行屋もその中に置かれていたのではないだろうか」という先述の大島氏のお話を、霧降川の瀬音を聞き、木々の匂いを感じながら思い出してみました。このようなものが小百地区に残されていたとは全く知りませんでした。男体山を仰ぎ、川に面する所であれば他の地区にも行屋は作られていたのではないのでしょうか。現地に立ち、苔をまとった石仏様と対峙すると、木もれ日の下で湧き出る清水に身を清め、一心に捧げた村人の祈りが伝わってくるようで、身心ともに浄化されたひとときでした。

■ 今後に向けて

当会の前身である「今市の水を考える会」代表の福田健彦氏(故人)を中心とした先輩方は、今市扇状地に集められる水の豊かさを大きな宝物としてとらえ、それを守るための活動をしてこられました。当会も暮らしにかかわる水の記憶を探りそこから新たな力を与えてもらうために活動していきます。これからの「ゆったりウォーク」をぜひご期待ください。(塚崎)

目次:

緑やさしい山里へ	1
西沢川・川むし	2
2015年度 収支報告	2
山百合の咲く頃 オープンガーデン	3
ゆったりウォーク 小百編	4

お知らせ

次回の定例会

2016年9月23日(金)

会場はお問い合わせください。

午後1時~2時

写真: 霧降川で小休止



ゆったりウォークの感想をお寄せいただきました。ありがとうございます。

先の小百「ゆったりウォーク」楽しくて、また次回も参加したいと思えます。
付きましては、「霧降の隠れ三滝」なども行ってみたい気がします。寂光の滝など…。 (平成町 バアちゃん)



平成25年4月の「猪倉編」に続き、2回目の参加です。行者跡の大日如来と不動明王のお顔・表情が印象的。事前の下見のとき、地元のおばあさんの情報をたよりに、草むらから掘り出された話にはびっくり。何とか雨風や劣化からこれらを守る手立てはないものか。今市地区のたくさんの水資源は、地域の宝ですね。水の音、せせらぎを見ていると心が落ち着きます。次回はぜひ高百の桜を見に来たい。(北條)

つゆ空の日々で、早く晴天がこないかな、というこの頃です。過日は「ゆったりウォーク」お世話になりました。行川庵のそばもおいしいけれど、この間もでっかい皿で、おいしかったです。山あいの水路、棚田の数々も記憶に鮮明に残っています。「棚田と水流とそば!!、よかったです」(U)

西沢川の「川むしたんけん」とアミカ

5月21日(土) 長畑・西沢川
NPO法人なんとなくのにわ と共同開催

今回は鶏鳴山の麓を流れる「西沢川」です。この川には初めて足を踏み入れました。(この西沢川と長畑川が合流し、そのあと行川に注がれていきます。)水源が鶏鳴山であり、パークレイG・Cの傍を流れていますが、上流には人家もなく、両岸には落葉樹が育っています。鶏鳴山からしみ出してくる冷たい水を集めて下ってくる川なので、他の川にはいない生き物が生息しているのでは?と少し期待をしていましたが…。

いました、いました、珍しい虫が! アミカの幼虫が見つかりました! 解散後、希望者だけで午前中の場所より少し上流に行った所の、水の中の岩の表面にネットを当ててみたところアミカが見つかったのです。文献によると、和名は「網蚊」、成虫は蚊に似ているが人の血を吸うことはないそうです。岩の表面を滑り落ちてくる水に流されないよう、幼虫は腹部の吸盤を岩にしっかり張り付かせて藻類を食べるそうです。水生生物の指



標としてのアミカは、水質のきわめて優れた場所にしか生きていけない生物です。個人的にも今まで二度しか遭遇していない生き物なので、少なからず興奮しました。ダムのない上流域であるからこそ、この西沢川でアミカが生きていけるのです。私達の知らない場所で生き続けている生き物たち。そのような不思議な生き物がいることを日光市の多くの子供達に知ってもらいたいですね。そのきっかけ作りに、「川むしたんけん」が活かされればとても嬉しいことです。ここのアミカは宝物。また、アミカに会いたいです! 次に行く川で会えるでしょうか? (塚崎)

【採取記録】 天気:晴れ(気温 20℃、水温 13℃)
川幅: 10m、水面幅: 約2~3m
生物の採取:川全体、生物採取場所の水深: 5~10cm
川底: 砂、砂礫(れき)、石(直径 3~20cm)
水の濁り:なし・透明、におい:なし きれいな水
水質階級 I:
ウズムシ(ナミウズムシ)、サワガニ、ヒラタカゲロウ類、カワゲラ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類、アミカ類
水質階級 I~II:タニガワカゲロウ類
その他の昆虫:
ガガンボ幼虫、オニヤンマヤゴ、ミヤマカワトンボ(成虫)
魚類:カジカ、野鳥:ハクセキレイなどが見つかりました。

アミカ幼虫 小豆粒くらい



2015年度 水の会・収支報告

会費収入	19,000	ネット使用料	28,058
カンパ	0	ゆったりウォーク保険	2,000
収入合計	19,000	振込手数料	540
繰り越し金	108,708	通信送料	14,656
収入合計	127,708	ロッカー使用料	1,200
		支出計	46,454
		差引残高	81,254

山百合の咲く頃

オープン・ガーデンの試み

今回は、いささか回顧的な話で始めるが、お許し願いたい。

縁あって日光市と鹿沼の境近くに住んで、25年以上の歳月が経ってしまった。それ以前は宇都宮の町中に住んでいたが、高度成長の頃、自宅の前の道路が幅広い幹線道路になって、それまでであった下町独特の隣近所との日常的なふれあいは、道路に寸断される格好になってしまった。夜中には寝ていても大型の車が通過するたびに地響きがした。子供が小さかったこともあって現住地に引っ越してきた。

ここは農村部で、山林と水田が混在する起伏に富んだ地形になっている。住まいの隣は地元の神社と鎮守の森が広がり、見方によってはこの集落の中心部近くと言っても良いのかもしれない。地元の方たちがよそ者に土地を売るということは殆どないから、私たち家族がここに住めたということは、ある意味、奇跡的と言ってもよい。

今の季節は朝方、少し明るくなってくる四時半ごろになると、まずヒグラシが鳴き出す。その声は、まるで自然を讃えるお経でも唱えているかのようだ。「自然教」のお坊さんたちの朝のお勤めと言った感じである。他のセミたちも、これに続いて少しずつ鳴き出す。

こちらに移り住んですぐに、自宅と地続きの丘陵部の土地に、小規模の産業廃棄物の処分場を作られかけた。幸い我が家の隣には地元の神社と公民館があり、その井戸にも問題が起こりそうだということもあって、自治会が本腰を入れて地域総ぐるみで反対してくれた。紆余曲折、スツタモンダはあったが、最終的にはその土地を私の友人たちに買い取ってもらうという形で何とか解決した。

ところがそれは序の口の話で、ほっとするのも束の間、気がついてみると、この地区には極めて大規模な管理型処分場の計画が二つもあることが分かってきた。もともと、この地域は、中心部は盆地状でありながら住民数もあまり多くなく、変化に富む地形である点に目を着けられて、戦後、特に高度経済成長期以降、様々な結構うさんくさい大規模開発の計画が次々に押し寄せてきていたという。曰くダム計画、大規模霊園…そしてその極め付けが大型の管理型廃棄物処分場計画であった。地元の人がよそ者には土地を売ろうとしないのには当然の理由があったのだ。

引っ越してきたころ、近所の人に「ここは何もないけれど水と空気だけは最高だよ」といったようなことを言われたことがある。公民館近くの小規模な処分場問題で結束した自治会内には、既に『水は命』を合言葉に産廃反対同盟が結成されており、その事務局が機敏に対応を開始した。調べてみると、主な地主の方たちは殆どがお近くに住んでおり、幸いなことに土地は業者の手に渡っておらず、すべて計画の段階でストップさせることができたのである。

もしも、我が家に隣接した小さな産廃処分場建設の時、地元の方たちや自治会の十分な協力を取り付けることが出来ないまま、手をこまねいていたとしたら一体どうなっていたらだろうか。考えてみると本当にぞっとしてしまう。産廃反対同盟もなく、

大規模な管理型処分場計画への対応も一部の有志による、著しく面倒で時間のかかるものとなり、結果的に建設を許してしまったかもしれないのだ。山は削られて地形も変わり山腹はコンクリートで固められ、道路だけは立派になってダンプの行き交う殺風景で荒涼たる光景が出現していたのではなかったろうか。今から考えるとそうならなかったことの方が僥倖だったのではなかったかとさえ思えてくる。

月日は移ろい、三年ほど前から私のつれあいが、そのとき産廃処分場になりかけた土地を購入してくれた友人たちや近所の方たちと共に『オープン・ガーデン イン下板橋』という催しを始めた。(私はその下働き。当日は駐車場係で忙しい。)

オープン ガーデンと言うとイギリスの大邸宅のバラ園や一面の芝桜の大群落と言った風なものをイメージしがちだが、ここでは、こじんまりとした家庭菜園や畑を取り巻く花々や起伏に富む田園風景を見て歩いて楽しんでいただく、というのが主眼になっている。集落の中の道は舗装はされているものの、昔からある、くねくねと曲がりくねった細い道で車がすれ違うことさえままならない。だから、車は公民館の駐車場に置いていただいてウォーキングを楽しんでいただくという趣向である。

ここでは山野草というか、一昔前にはいたるところで見られた自生する草花も見ものの一つになっている。例えば、春先はセリバオウレンや自生の福寿草の群落に始まり、山桜やヤマツツジ、そして夏にはヤマユリが花形だ。地元の方たちも草刈りをやっても、いくつかの花は刈らずに上手に残しておく。特にヤマユリは別格だ。この花が咲く頃が、ある意味でこの地域の自然の極点であろう。やがて一面に広がる水田は黄金色の稲穂を風になびかせるようになる…日光今市の農村部に住まわれている方々にとっては、珍しくもなんともない風景であろうが、街の喧噪の中に住む人々には、若干でもほっとできる時間を提供できるのではないかと思っている。

3年目ともなると、来訪される人々との交流も次第に密になってきて、いくつかのガーデンでは今年から野菜や花の販売も始められた。開催は年6回。次回は10月9日(日)である。よろしかったらお出かけ下さい。(2016/8/18 森)

オープン ガーデンについてのお問い合わせ
ポッカラ(森恵美子) Tel: 0288-27-2183



活動報告

2月26日(金) 定例会、3月25日(金) 定例会
4月22日(金) 定例会
4月24日(日) イオンイエローシートキャンペーン
贈呈式に出席-¥11,400-の寄付あり
プリンターインクと交換
4月29日(金) ゆったりウォーク・小百編
5月21日(土) 川むしたんけん、
6月24日(金) 定例会、7月22日(金) 定例会
8月26日(金) 定例会

だいや川通信
第41号



郵便振替口座 00140-4-535550
連絡先

〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方

今市の水を守る市民の会

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

ゆったり ウォーク 小百編に参加して



小百の桜公園から歩き始めました。屋根の一部を直した茅葺屋根の家が、ありました。『茅葺屋根を維持しながら住み続けるのは大変なことです。』

天気もよし、気分もよし、
『上機嫌で歩け・歩け』



行屋跡で、二体の石仏に出会う。

『石仏様お会いできて私はうれしゅうございます。これで安心してこれからの人生、生きてまいります。』

タンポポ野原のようですが、本当はたんぼなのかな・・・

『ダメよ・ダメダメ！休耕田にしないで、大豆でも作ろうよ』



犬も歩けば…。ワラビに戯れ。『放射能汚染はだいじょうぶ?』

霧降川の床滑(とこなめ)。

大きな滑らかな岩の上をすべるように水が流れていました。『夏には、一族うちそろって川遊びがしたいな…』
★敬愛してやまない二宮尊徳先生の偉業をみて歩きました。



今でも、用水掘りが田畑を潤しています。『 』内の一言は、私のたわごとです。お気に留めないでください。

写真は、(お散歩カメラ)・森の作品です。(EM)

編集後記

めったに起こらないはずのブラックホール合体事象が、また発見されたというニュースが流れました。昨年9月に続いて12月。この宇宙は人類が思い描いているよりずっと騒がしいのかも■『地球進化 46億年の物語(ブルーボックス)』は近年の研究成果をふまえ、この惑星が受けた激動の歴史の果てに現在があることを紹介しています。40数億年前の惑星大衝突で月が作られ、地軸が傾いた。その後の小惑星の落下、巨大地殻変動、気候激変など大災厄の連鎖が生命の星を育んだという、奇跡としか思えないお話です■いま季節の変化があるのも、地球誕生後間もない、はるか昔の大事件が原因。そんな思いをめぐらせながら中秋の名月を眺めるのも一興です。(T)